

企業戦略のための  
クオリティー情報紙

隔日刊

(毎週月・水・金曜発行)

# ゴルフ特信



一季出版株式会社

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-9-13  
TEL 03(3864)7821(代表) FAX 03(3864)7820

関西支局 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-4-406  
TEL 06(6307)1581(代表) FAX 06(6307)1620

購読料 1年 115,000円(税込120,750円)  
(前納) 半年 67,500円(税込 70,875円)  
3ヵ月 35,000円(税込 36,750円)

情報提供は03(3864)7821

姉妹誌 月刊 **ゴルフマネジメント** 発行

2013年(平成25年)5月27日 月曜日 第5527号

業界情報

目次

## 那須チサンCC(栃木)

7月5日から「那須CC」に (2)

PGMグループがホスピタリティPグループへ売却  
新設分割で事業譲渡、チサン共通平日からは離脱へ

## 国内の韓国系ゴルフ場にみる

韓国からの来場者動向 (4)

九州地区でも来場者が減少、韓国からの航空便運休で  
福島県は運休に加え、放射能汚染問題が影響する――  
大玉TAIGAは震災前の韓国客2割も昨年3件のみ

## 鶴舞CC、325万円募集が

開始半月で定員に達し締切 (6)

――100口完売、6月中旬にも次回募集の概要を発表へ――

☆ オーシャンキャッスルCC(沖縄) 地元中城村と協定 (7)

OGM、津波時の一時避難施設として一部コース開放

☆ 閉鎖中の古川CC(宮城) 売却または賃貸を模索 (8)

ゴルフ場として、ないしはメガソーラーの用地として

☆ (株)アコーディア・ゴルフ、株式の100分割を発表 (10)

☆ 破産の(株)ワールドエースCCに進展なし (10)

## △業界情報▽

那須チサンCC(栃木)7月5日から「那須CC」に  
PGMグループがホスピタリティPグループへ売却  
新設分割で事業譲渡、チサン平日共通からは離脱へ

那須チサンカントリークラブ(18ホール、栃木県那須  
郡那須町大字寺子乙677の28、Tel.0287・62・08  
40)が7月5日に経営交代し再出発する。

同CCを傘下に持つPGMホールディングス株(神田有  
宏社長、東京都港区)によると、ゴルフ場資産管理子会社  
であるパシフィックゴルフプロパティーズ株が保有する同  
CCを、新設分割により設立する株那須カントリークラブ  
に承継後、同新設会社の全株式を7月5日付けで株ホスピ  
タリティオペレーションズへ譲り渡す株式売買に関する基  
本合意書を両社で5月20日付けで締結した。

この株式譲渡に伴い、PGMによる運営は7月4日をも  
って終了する予定で、PGMによるオンライン予約、P-C  
APなど一連のサービスや特典、平日共通会員権(那須チ  
サンCC、クリアビューGC&H、岡部チサンCC、富士  
チサンCCの元チサングループ4ゴルフ場利用権、代わり  
に優待券発行予定)の利用はできなくなる。

一方、那須チサンCCを譲り受ける株ホスピタリティオ  
ペレーションズ(田中章生社長、東京都千代田区神田錦町

2の5の16名古路ビル新館8階、TEL5755・5516)も5月20日に「ホスピタリティパートナーズグループゴルフ場運営事業に進出」としてプレスリリースを行った。

7月5日に(株)那須カントリークラブの全株式を取得し、同日から同ゴルフ場は「那須カントリークラブ」に変更し再出発する予定とした。

同ゴルフ場は昭和41年に開場した歴史と風格のあるコースとし、赤松林によってセパレートされた各ホールは全体的にフラットで快適にラウンドできる。宿泊施設としてツインタイプの客室20室(40名)及びコテージ5棟が併設され、ファミリーやグループでの貸切利用も可能と紹介している。現会員の平日会員含め約2400名の権利に変更はない。

また同グループについては、11の会社で構成され、ホテル運営は「スマイルホテル」を中心にビジネスホテル31カ所とリゾートホテル3カ所、スキー場は舞子スノーリゾート(新潟)、湯沢中里スキー場(同)など4カ所を営業し、湯沢中里では夏営業としてゴルフショートコースやゴルフ練習場の営業を行っているという。今回のゴルフ場運営についてはグループ施設との連携によるシナジーを実現するために各種特典を検討していくという。

なお、同社の田中社長は、ローンスタースターグループのハドソンジャパンで米系不動産投資ファンドの立ち上げに参画

し、チサンホテル事業家管財人としてターンアラウンドを主導した後、平成17年に同社を設立、M&Aなどで事業を拡大してきたという。3年後の2016年にホテルを100カ所に拡大する目標を立てている。

国内の韓国系ゴルフ場にみる、韓国からの来場者動向

九州地区でも来場者が減少、韓国からの航空便運休で福島県は運休に加え、放射能汚染問題が影響する——大玉TAIGAは震災前の韓国客2割も昨年3件のみ

平成23年3月11日の東日本大震災後は、ゴルフを目的の一つに訪日する外国人は減少した(なお、震災後のデータは観光庁の集計から推計すると平成24年は11万7150人、本紙5511号既報、ただし、震災前の全国的な集計はない)。そこで、状況を知るために国内の韓国系資本のゴルフ場に話を聞いた。

地域別では、九州地区に韓国系のゴルフ場が多い。(株)龜尾(グミ)開発は同地区で5コースを経営しているが、その内のジェイズCC日向コース(18H、宮崎)は、韓国からの来場割合は約1割だが、震災による来場者の減少はほとんどないとしている。ジュニアや学生のゴルフ合宿での来場が多く、その合宿も恒例化していることからのようだ。

矢部サンバレーCC(18H、熊本)も、オーナーが「集客は日本で」という方針から韓国からの来場はほとん